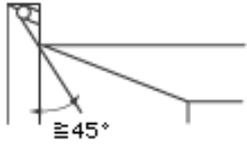
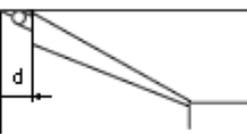
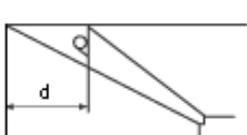


## 3.9 建築化照明

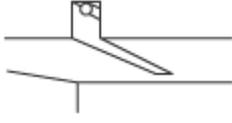
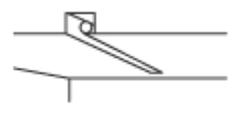
3-88

建築化照明とは、「光源を天井や壁などに組み込み、建築構造と一体化させた照明方式」をいいます。次にそれぞれの照明方式の特徴を示します。

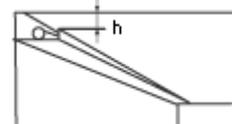
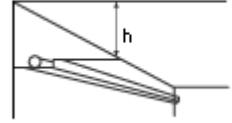
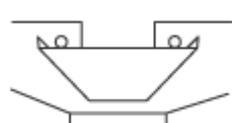
### ■コーニス照明

図	特徴
	<p>コーニス(下面開放)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●壁が明るくなり、広がり感が得られる。</li> <li>●カーテン・ブラインド照明によく用いられる手法である。</li> <li>●ランプが視野に入らないためには、遮光角が45°以上必要である。</li> </ul>
	<p>コーニス(ランプ遮光)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●壁が明るくなり、広がり感が得られる。</li> <li>●通路などでコーニスに平行に見る場合に、ランプを見せないための手法である。</li> <li>●施工が難しいという欠点がある。</li> </ul>
	<p>コーニス(下面拡散ガラス)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●壁が明るくなり、広がり感が得られる。</li> <li>●コーナー型光天井とよく似た手法となるが、コーニスの場合は幅が狭く線形が強調される。</li> <li>●天井と壁の境界部分が目立ったものとなる。</li> </ul>
	<p>コーニス(下面ルーバ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●壁が明るくなり、広がり感が得られる。</li> <li>●開放形や拡散ガラス形よりは壁の下方まで明るくなる。</li> <li>●エレベータホールや通路などによく用いられる。</li> </ul>
	<p>コーニス(凹・dが小さい場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●カーテン・ブラインド照明によく用いられる手法である。</li> <li>●コーニスを天井内に納められない場合に用いられやすい。</li> <li>●天井が暗く感じられやすい。</li> </ul>
	<p>コーニス(凸・dが大きい場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●壁廻りだけが明るくなり、その部分が強調される。</li> <li>●カウンターや店舗の棚の照明としてよく用いられる。</li> <li>●広がり感が得られる。</li> </ul>

### ■トロファ照明

図	特徴
	<p>トロファ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●アーチ形天井などともによく用いられ、天井空間に明暗の変化が得られる。</li> <li>●ランプが直接見えないように視線方向に注意する。ランプ遮光角は45°以上必要である。</li> </ul>
	<p>トロファ(ランプ遮光)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ランプが直接見えないようにする手法である(無方向性)。</li> <li>●空間に変化を与えたり、区分したい場合に用いられる。</li> <li>●施工が難しいという欠点がある。</li> </ul>

### ■コーブ照明

図	特徴
	<p>コーブ(hが小さい場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●柔らかい光が空間全体に得られ、影の少ない環境となる。</li> <li>●光の帯が天井面に生じ、空間に変化を与える。</li> <li>●通路などに用いられれば誘導効果上がる。</li> </ul>
	<p>コーブ(hが大きい場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●影のない柔らかい環境が得られ、店舗などのベース照明として用いられる。</li> <li>●天井面が比較的一様に照明され、天井を高く感じさせる。</li> </ul>
	<p>コーブ(上り天井)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●シャンデリアと併用されることの多い手法である。</li> <li>●天井を高く感じさせ、シャンデリアなどの輝きも適度なものとなる。</li> </ul>
	<p>コーブ(下り天井)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●広い空間を視覚的に区分し、空間に変化を与える。</li> <li>●ダウンライトなど直接照明によって生じる陰影を和らげる。</li> <li>●デパート、ホテルのロビーなどに用いられる。</li> </ul>

## ■光天井

図	特徴
	<p>光天井(全体的)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●曇天時の屋外の雰囲気、影が少ない柔らかい光が得られるが、陰気な感じにもなりやすい。</li> <li>●<math>S \leq 1.5 \cdot h</math>でほぼ一様な輝きの光天井が得られる。</li> <li>●アクリル系は防災上面積の制限有り。</li> </ul>
	<p>光天井(部分的)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●天窓がある感じで、明るく軽快な雰囲気が得やすい。</li> <li>●グレアレスダウンライトと併用されることが多く、単調になりがちな天井に変化を与える。</li> <li>●店舗によく用いられる。</li> </ul>
	<p>光天井(凸・部分的)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●天井面が明るくなるので、広く高く感じられる。</li> <li>●店舗では絵や模様入ガラスが用いられることもある。</li> <li>●光天井は汚れや虫などが目立ちやすく、保守方法が課題である。</li> </ul>
	<p>コーナー型光天井</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●適度な陰影(立体感)が得られとても感じが良い。</li> <li>●グレアレスダウンライトと併用されることが多い。天井・壁が明るくなり、高く感じられる。</li> <li>●通路などで誘導効果がある。</li> </ul>

## ■ルーバ照明

図	特徴
	<p>ルーバ天井(全体的)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●光天井と同様だが、光の拡散性がやや弱く、壁が暗くなる。</li> <li>●<math>S \leq 1.5 \cdot h</math>でほぼ一様な輝きになるが、ランプ長軸方向の光の様子は消せない。</li> <li>●アクリル系は防災面積の制限有り。</li> </ul>
	<p>ルーバ天井(部分的)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●光天井と同様だが、光の拡散性がやや弱く、壁が暗くなる。</li> <li>●玄関ホールなどによく用いられ、大メッシュが多くなった。</li> <li>●ランプ交換・ルーバの清掃などが課題である。</li> </ul>

## ■バランス照明

図	特徴
	<p>バランス(dが小さい場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●壁に変化を与えるとともに広がり感が得られる。</li> <li>●バランスの位置に応じ、ランプ遮光角は上側または下側に<math>45^\circ</math>以上が必要である。</li> <li>●リビングや通路に用いられる。</li> </ul>
	<p>バランス(dが大きい場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●壁廻りが明るくなり、空間を広く感じさせる。</li> <li>●間接光が陰影を和らげるとともに、天井を高く感じさせる。</li> <li>●カウンターや店舗の棚の照明によく用いられる。</li> </ul>
	<p>バランス(ルーバ付)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●壁廻りが明るくなり、空間を広く感じさせる。</li> <li>●カウンターや店舗の棚の照明の、グレードの高い手法である。</li> <li>●ランプが直接見えないようにする手法である。</li> </ul>

## ■吊・半間接

図	特徴
	<p>吊・半間接(ルーバ付)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●カウンターや店舗のショーケースの照明としてよく用いられ、空間に境界を創る。</li> <li>●間接光が陰影を和らげるとともに、天井を高く感じさせる。</li> </ul>